

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 A棟)

事業所番号	0692600018		
法人名	株式会社 三友医療		
事業所名	グループホーム三友たかはた		
所在地	山形県東置賜郡高畠町大字高畠1181-3		
自己評価作成日	平成 30年 12月 25日	開設年月日	平成22年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族と一緒に食事をして、楽しい時間を過ごして頂けるような行事を企画し、ご家族との絆が絶えないようにしています。地域の方との交流を大切に、ボランティアの方に歌を聞かせて頂いたり、一緒に歌ったり、芋煮を作って頂いたり御支援を頂いております。また、近所の方からは、季節の花や、果物、野菜などを頂き、ご利用者様もとても喜ばれています。施設内は、季節感を感じるような飾りを飾ったり、ゆったり過ごして頂けるように心掛けています。ご利用者様の好きな事(塗り絵、歌)をして頂いたり、職員とゆっくり話をしたり、ゲームをして笑ったり、時を楽しく、穏やかにご利用者様のペースに合わせて過ごして頂いております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 31年 1月 24日	評価結果決定日	平成 31年 2月 12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事の後はゆっくりお茶を飲み、皆でする体操や創作活動、利用者同士や職員との会話、のんびり過ごす午後のひととき、利用者は自分の生活リズムに合わせて暮らしています。夏祭りや敬老会では地域の人々やボランティアとの交流で笑顔になり、クリスマスや節分豆まきで童心に返り喜んでいきます。運営理念「自由で楽しくゆっくと思いやりと笑顔の中で地域とともに」を共有しながら職員は一人ひとりが「利用者の個性はみんな違う、その人に合った対応は・・・」「認知症状が進まないようにするためには・・・」などの思いを持ち、利用者とその人らしく毎日過ごせるよう寄り添いながら支援に取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念と運営理念を朝礼で唱和している。施設内に掲示し、理念の共有を図り実践出来る様に努めている。ケア会議においても運営理念に基づいたケアが出来ているか等の話し合いを行なっている。	職員が楽しんで支援することが利用者も楽しんで生活できるとの共通の思いを持ちながら「思いやりと笑顔の中で寄り添う支援」に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の個人商店から食材を購入したり、地域のお祭りに参加している。地域のボランティアの方に歌を歌って頂いたり、芋煮を作ってもらっている。また、野菜や果物の差し入れをして下さり、運営推進会議にも参加して頂いている。	野菜の差し入れや牛乳の購入など日頃より近隣住民とは挨拶を交わしながら親しく付き合っている。敬老会ではボランティアによる芋煮の調理や歌の披露で利用者に笑顔が生まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常の挨拶を行い、交流を図ると共に日常会話の中で質問があれば、グループホームや認知症についてお話を頂いている。運営推進会議で、認知症についてもテーマにし、話し合いの場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に行いサービスの取組み状態などを報告している。ご利用者様にも参加頂き、意見をお聞きしている。1年間のテーマも決め、そこでの意見を活かしサービスの向上に繋げている。	利用者・家族等・役場担当者・地域代表4名が出席し、利用者状況や活動・行事報告を行うとともに予め決めてあるテーマ(身体拘束・避難訓練・認知症Q&A・感染症・徘徊・外部評価)について会議毎に意見交換し、より良いサービスに繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、ケアサービスの取組みを伝えたり、地域交流の行事に参加させて頂いている。分からない事等アドバイスを頂いたりして、関係を築いている。	運営推進会議を通して事業所取組みに理解をもらい、介護情報の提供やアドバイスを受け不明点の相談をしながら連携した関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関に鍵をかけず、自由に出入りできる状態にしている。直ぐ道路のため、職員が見守るようにしている。身体拘束については、社内研修で学習しており運営推進会議でも毎回現状等話している。職員全員が理解しケアを行なっている。	利用者が自由に安全に暮らせるよう見守りを行い支援している。研修を通して身体拘束のないケアについて職員全員が理解し、話しかける言葉についても互いに注意し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修でも学習しており、職員全員が虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	計画作成員等の職員が、養成講座を履修している。全職員が活用できる様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書・重要事項説明書の読み合わせをし、説明をしている。特に、入所、退所時の注意点は詳しくお話している。ご利用者様や御家族様の心配点についてしっかり聞き取りをし、不安なく入所できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催、玄関に「御意見箱」を設置し、意見や要望を出せる環境を作っている。行事に参加して頂き、その都度感想を聞かせて頂いている。面会時等もコミュニケーションを取り、要望等をお聞きし、ケア会議等で話し合い運営に反映させている。	利用者との関わり時、家族等とは面会時などふだんから話しやすい雰囲気づくりに努め意見や要望を聞いている。食べ物のことや加湿器がほしい、浴槽内に手すりを付けてほしいなど聞き取った意見や要望はケア会議で話し合い改善を図っている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員に問いかけし、コミュニケーションをとっている。月1回のケア会議には代表者も出席し、全員が意見を出せる場を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を毎年行なっている。各自の要望や、会社としての期待等を話し合っている。提案等は、その都度聞き、反映できるように努めている。個人の力が発揮でき、向上してしていける環境にしている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を月2回(同じ内容)実施しており、全職員が参加出来る勤務体制となっている。外部研修では、発表の場を設け伝達研修を行なっている。	法人内研修が同じテーマで月2回あり、全員が受講しケア知識や技術の向上を図っている。新人職員が多いため職員間コミュニケーションづくりに努めながらケアマネジャーを講師として清拭の実技研修などを行い、全体のレベルアップに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修等に参加し、同業者との交流の機会が持てるように心掛けている。	同業者との交流する機会はほとんどないが法人グループ内の他事業所との交流を通して向上に繋げている。	外部研修会等への参加など機会をつくり、管理者・ケアマネジャー・職員それぞれが同業事業所との交流を通してサービス向上に取り組むことを期待したい。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用される前にご本人と面談し、生活状況や要望・不安な点を確認し話し合い、安心感を持って頂ける様に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に面談し、要望や不安なこと等を聞き、どのような対応、方法があるか事前に話し合っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族様の希望や何を必要としているかを見極め、その時必要なサービスを提供できるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという意識を全員が持ち、穏やかに過ごせる環境・雰囲気作りを行なっている。ご利用者様に出来る事はお願いし、協力しながら過ごしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は他利用者様とも、一緒にお茶を飲みながら話相手になって頂いている。受診等への付き添いも出来る範囲でお願いし、職員を支えてもらっている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたい場所等をお聞きし、出掛けられるように支援している。行事の御案内をお友達にもさせて頂き、ご参加頂けるようにしている。お友達の面会も多くあり、お話する機会を設けている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで話す機会作りや話題提供を行なっている。気の合った方同士で過ごせるような席位置、声掛けに努めている。レク活動に参加して頂き、孤立しないよう職員が声掛け見守りを行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方が、訪問して下さったり、ご家族様にもいつでも立ちよって頂けるように声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お茶の時間や食後の空いた時間、入浴介助時に多く会話し、ご本人の思いを聞き出すように努めている。表情や言葉から思いや希望を把握し、ケア会議等で職員同士共有できるようにしている。	利用者との関わりのさまざまな場面で思いや意向を聞き取っている。管理者やケアマネジャーに伝え申し送りノートやケア記録に記入し、ケア会議で話し合い職員全員が共有して支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談で、生活歴についてお聞きしている。日々の関りの中でお聞きしたり、ご家族様からも出来る限りお話を伺い、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活リズムを把握するようにしている。出来る事を見つけ、その力を引き出せるように、ケア会議等で話し合い意見を出している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活機能や健康状態、精神状態等、担当職員に確認している。ケア会議で全職員と意見交換し、ご本人・ご家族様の希望を聞きながら作成している。	ケアマネジャーがふだんから本人や家族等の思いや意向を職員より聞き取り、現行プランの評価・検討をしながらケア会議において全員で話し合いプランを作成している。利用者のペースに合わせ望む暮らしが継続できるよう支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の言動を記録し、気が付いた点を職員と話し合いながら、実践や計画に活かしている。ケア会議においては、全職員より深く話し合い、共有している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地元で開催されている行事に参加させて頂いている。また、獅子舞にきて頂いたり、住み慣れた地域での慣習が継続できるように支援している。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診報告書を作成し、かかりつけ医との連携を図っている。受診はご家族様にも協力して頂き、受診報告書で情報を共有している。</p>	<p>かかりつけ医は利用者の希望を継続し、家族等や職員が付き添って受診している。かかりつけ医や協力医の往診もあり、受診報告書で状況を伝え、結果を記入し共有して、利用者の健康維持に繋げている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員の配置が無い為、気付いたことや変化があれば直接かかりつけ医に伝え、相談又は受診報告書にて相談している。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>町内の病院の場合、週1回は面会に伺い、担当の看護師より病状の説明を受けている。退院に向けての話し合いや留意点等、詳しく説明を受けている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合、事業所側で対応できるケアを改めて説明している。ご家族様・主治医・管理者・ケアマネジャーが話し合う場を設定し、支援方針を共有している。</p>	<p>利用開始時に重度化してきた時に、事業所で出来るケアを説明して家族等の了解を得ている。食事を取れなくなって来た時に医師・家族等と話し合い、看取りについて確認し、医療連携で職員も協力し合い支援をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けている。急変時対応マニュアルを活用している。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練を行なった。地域の方の参加はなかった。	年2回の避難訓練は想定を変えて行っている。災害時職員通信網の整備や、利用者に関わる情報の持ち出しケース等も備えている。	夜間の災害時は職員の対応に限界があり、どうしても近隣の方の協力が必要になってくる。運営推進会議で協力を要請するなどの検討を期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個人情報の保護に努め、日々の関りの中でご利用者様の尊厳やプライバシーに配慮している。言葉使いや態度を接遇研修で学び、実践している。	日々の関わりでは利用者の尊厳を守り、プライバシーに配慮しながら、人生の先輩であることを念頭に置き接している。接遇委員会でポスターを作り、言葉遣いや接し方の啓発運動を行い利用者が輝いて暮らせるよう努めている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択枠を準備し、ご利用者様が自己選択・自己決定できる様に心掛けている。また、日頃の関わりから思いを聞き出すように努めている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、時間の区切りはなく、ご利用者様のペースやライフスタイルに合わせ、体調をみながら柔軟に対応するよう心掛けている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えはご本人に決めてもらっている。化粧水、メイク用品を使用されている方もいる。男性の方は、声掛けにより髭剃りをされている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	宅配業者の骨抜き魚やカロリーや栄養バランスを考慮した献立となっている。地域の方の差し入れや職員手作りの地元料理、行事食でご利用者様に喜んで頂いている。	食事の提供方法を変更し、昼は地元の弁当を配達してもらい、朝と夕食は副食の配食を受け、ご飯と汁物は職員が作る形を取っている。近所からの差し入れ野菜や行事食、また毎週夜1食、職員が調理する日があり楽しみとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が把握できる様に、食事・水分量のチェック表を活用している。生活習慣や身体機能に合わせて、飲み物形態を変えて提供している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員全員が認識しており、一人一人の状態に合わせた口腔洗浄・義歯洗浄の声掛け、ケアを行っている			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人一人の排泄パターンを把握するようにしている。時間をみて声掛け、誘導している。排泄行為を活用し、下肢筋力強化・A DLの向上に努めている。	排泄チェック表を活用し、利用者の様子を見ながら声がけし、トイレで排泄出来るよう誘導している。終わったら鈴を鳴らして合図してもらったり、トイレの前で待つなど羞恥心への配慮をしている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質のものを摂って頂ける様に、心掛けている。水分をこまめに摂って頂くように声掛けを行なっている。体を動かして頂くよう、毎日リハビリ体操を行なっている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回を基本としているが、希望があればいつでも対応できるようにしている。転倒防止等に気を付けてサポートしている。ゆっくり入って頂けるよう見守り、ゆったりとした時間を楽しんで頂いている	浴室を暖め、湯温を確かめて、身体状態を確認しながら転倒など無いよう気を付け、1対1の介助で入浴している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情や体調をみながら、日中活動する場面を増やす工夫をして、生活リズムが整うようにしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の薬の説明書を活用して確認し、理解している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を見つけ力を発揮して頂けるよう支援している。得意分野や好きな事を尊重し、発揮の場を考案している。また、共に感謝の気持ちを伝えるようにしている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1ヵ月に1回程度、ドライブや外食に出掛ける機会を作り、季節感を味わって頂ける様にしている。また、当社の他事業所で行なわれた、夏祭りに参加され、他ご利用者様や、職員と交流を計られた。	外出行事が多く計画され、利用者は季節の移り変わりを楽しんでいる。希望して、週一回買い物にケアマネジャーと一緒に出掛ける方もおり「私だけの時間」を過ごし満足している。夏祭りは法人グループ合同で開催され、大勢の仲間と過ごし思い出を作っている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の日を決め、職員と出かけご自分で財布から金銭を出し支払いを行なっている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話ができる様にしてあり、対応できる状態になっている。手紙についても本人の自信のないところは、お手伝いしながらやり取りできるように支援している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には、行事の際の写真を掲示したり、ご利用者様の作品等を飾っている。玄関先や、施設周りには季節の花を植えたり、施設内に花を生けたり、常に季節感を感じて頂けるよう工夫している。共有スペースは、和室があり、清潔で、ゆったり出来る空間になるよう心掛けている。	リビングは整理整頓清潔を心掛け、季節が感じられる装飾をするよう配慮し利用者がくつろげる場所となっている。食席は自分の居場所になっているが、和室で食事する方もおりそれぞれが自由に生活を楽しんでいる。玄関前のホールは、中庭を眺めながら一息つける場となっている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の椅子、ソファー、リビングの和室スペース等気の合う方と話をしたり、お一人でゆっくり過ごせるスペースを作っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居頂く際、居室には今まで使用し、馴染みのあるものを持ってきて頂くようにお話している。ご本人が落ち着いて、安心して過ごせる居室になるよう、ご家族様と相談し、協力を得ながら行なっている。</p>	<p>居室には使い慣れた物を持って来てもらい、今までに近い暮らしをしている。転倒防止に赤外線センサーの利用やコールベルも必要に応じて付けるなど夜間対応もしている。不安を訴える利用者には、声かけや会話などをし、見回りで安心して休めるよう対応している。</p>	
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関、トイレ、廊下、浴室、脱衣所に手摺を設置し、安全確保、自立支援を行なっている。居室内は動線が確保出来るよう、整理整頓を心掛けている。</p>	/	/